

<p>1 学校教育目標</p> <p>創立以来135年にわたる歴史を有する本校の校是である「質実剛健」、「鍛身養志」のもと、生徒一人一人が教職員並びに生徒相互間に敬愛と信頼を中心とした好ましい人間関係を築く中、「熱き心(若々しい情熱)」・「寛き心(思いやりの心)」・「毅き心(チャレンジ精神)」を醸成し、忠恕の心を忘れず己の可能性に挑戦することで、高い知性と広い視野を持ち、次代の日本・世界をリードする人材育成を目指す。</p>

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>学力、人間力、部活動をはじめとする諸教育活動において、生徒・保護者・県民の期待に応え得る学校づくりを目指す。 ①学業面では全国レベルを視野におき、部活動でも県下の上位を目指すなど、学業と部活動の双方に優れた学校づくりを目指す。 ②豊かな人間性を構築するために、西高生としての品位と品格を涵養できる豊かな教育環境を持った学校づくりを目指す。</p>

<p>3 本年度の重点目標</p> <p>6万余の卒業生によって築かれた歴史と伝統を継承し、「学力向上」・「豊かな人間性の構築」を第一義とし、「忠恕の心を忘れず、己の可能性に挑戦」する佐賀西高等学校生を育成するため、特に次の点に力を入れることにより、心身ともに健康で明るく元気で活力ある学校づくりを目指す。</p> <p>① 更なる学力向上と高いレベルの進路保障を実現する。 ② 教科指導力の向上を図り、授業の充実を目指す。 ③ メリハリのある文武両道の実践とPDCAサイクルによる自己向上力を育成する。 ④ 基本的生活習慣の更なる確立と豊かな心を育むための取り組みを実践する。 ⑤ ボランティア精神を育成するための活動を実践する。 ⑥ 更なる保護者や地域への情報発信に努力する。</p>	<p>4 前年度の成果と課題</p> <p>各学年と進路指導部を中心に学力の動向を把握に努め対応した結果、今年度も現役で東京大学2名、京都大学2名、大阪大学3名、国立大医学部7名、九州大学49名の合格者を出すという結果を引き出した。部活動面においても全国大会や九州大会に出場するなど、学校経営ビジョンに掲げる「学業面では全国レベルを視野におき、部活動でも県下の上位を目指すなど、学業と部活動の双方に優れた学校づくりをめざす。」という目標にさらに近づくことができた。本校の教育活動について、「ホームページ」や「学校だより」等で保護者や生徒だけではなく、県下の中学生に対しても広く広報することができたことなども成果としてあげたい。 今年度も学力と人間力の双方の向上を目指して、学年指導や担任指導、教科指導のあり方を再点検していく。そして、職員間の一層の共通理解を図りながら、目標を達成するよう組織的に取り組んでいきたい。</p>
--	--

5 総括表

① 更なる学力向上と高いレベルの進路保障を実現する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 出口を見据えた学力の向上が図れたか。 主体的な学習習慣を確立させることができたか。 思考力・判断力・表現力の育成ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学の二次試験に対応できる学力を養成する。 予習・復習に確実に取り組ませる。 考えの道筋を学問的な言葉で記述できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年次は国語, 英語, 数学の学力充実に主軸をおき、考えさせる授業展開を工夫する。 毎時の授業進度予定を生徒に前もって伝達する。 記述力育成の観点をもって教材選定、テスト作成にあたる。
教育活動	○進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人がより高き進路目標を掲げ、その実現のための大学進学を果たすことができたか。 キャリア教育の充実による職業観、勤労観の育成ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生、東大5名、九大50名、国立大医学部医学科10名の合格者を出す。 1, 2年生、それぞれ東大40名九大160名の志望を確保する。 具体的な職業を通して社会における自分の将来像を描かせる。 大学の学問の専門性を理解し、自らの進路意識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会の更なる充実をはかる。 進路検討会、学力検討会を充実させる。 小論文研究を充実させる。 保護者参加の合格体験発表会を実施する。 1年次より職業人の話を直に聞く機会を設ける。 大学のオープンキャンパスへの積極的参加を促す。 大学生の話を聞く機会を設ける。
② 教科指導力の向上を図り、授業の充実を図る。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした指導による基礎的・基本的知識及び技能を習得させることができたか。 難関大入試の教科特徴を把握し、それを活かすことができたか。 生徒が目指す大学に関する情報を把握できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が集中して主体的に臨まざるを得ないような授業をおこなう。 難関大学への教科指導が的確にできるところまで全職員の指導力を高める。 生徒が目指す各大学の入試システム及び入試問題に全職員が一定の知識を有するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同教科に限らない教師相互間の授業参観を活性化させる。 難関大学対応のオリジナル模試を実施する。 校内で入試問題研究報告会を開催する。 校外の入試説明会への全職員の参加を促す。
学校運営	○授業時数の確保	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間を確保することにより、授業を充実(進度の確保)させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス間での教科・科目の授業時間数のばらつきを是正し、適正な授業の進度を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに、授業の欠けた曜日・校時等を把握し、曜日の振り替え等を行う。
③ メリハリのある文武両道の実践とPDCAサイクルによる自己向上力を育成する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高め家庭学習時間を確保するような指導の工夫・改善ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日3時間の家庭学習を確保させる。 家庭学習の時間配分を再点検させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の記録」週間で得たデータを活用し、学習時間が不足している生徒に適切な指導を行う。 模試の結果および「日々の記録」のデータ分析を綿密に行うことで、教科のバランスの重要性を指摘し総合成績が上昇するような指導を行う。

④ 基本的な生活習慣の更なる確立と豊かな心を育むための取り組みを実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせることができたか。 確かな倫理観に基づく規範意識の確立と実践ができたか。 交通安全の意識を高めることができたか。 自他の尊重、社会連帯の精神の涵養と共生社会に必要な能力の育成ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 品位・礼節ある態度を身につけさせる。 時間を守る、挨拶を気持ちよくする等の基本的な生活習慣を確立させる。 自転車マナーの理解・徹底をさせる。 自他の生命を尊重し、いじめのない生き生きとした学校生活を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年と生徒指導が組織力を持って、身だしなみの指導を行うとともに、教師自ら率先して挨拶を行い、生活全般にわたり模範となって生徒を指導していく。 面接・声かけなどを積極的にいき、生徒の声に耳を傾け、意思の疎通を図る。 生徒指導部が随時、校内を見回り指導していく。 登校指導において交通マナー・7時45分着席を指導していく。 講演や集会などで命の大切さを訴えていく。
教育活動	○環境美化	<ul style="list-style-type: none"> 教室が学習環境として整備されているか。 ゴミの分別、減量化ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教室が常時整理整頓され、清掃の行き届いた状態にする。 環境美化に関する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の環境美化週間を設け、保健委員による点検を実施し、生徒の意識を高めるとともに教室の環境を整える。 ゴミの分別指導と持ち帰りの呼びかけを行う。
教育活動	○読書指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の読書活動や調べ学習の場としての機能を図書館が十分に果たしているか。 良書に親しみ、読書を通して思索を深めたり感性を豊かにしようとする態度を育成できたか。 朝の10分読書が充実したものになっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人当たりの年間平均貸出冊数を、4.0冊以上とすることを旨とする。 読書感想文コンクールの県審査において、計8名以上の入賞者を目指す。 全生徒が集中して読書できる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だより「遠心」をより充実した内容にするとともに、生徒の意見を取り入れ、利用しやすい図書館づくりを目指す。 読書感想文に対する生徒の意欲を喚起するとともに、校内審査段階でのチェックや清書指導を丁寧に行う。 生徒が主体的に取り組む読書指導（図書委員中心の読書、巡回指導等）を充実させる。
特定課題	○長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者と担任とが連携して生徒の実情に合った指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校状況を把握し、共通理解のもと教室への復帰を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の実情を把握し、スクールカウンセラーとも連携し、生徒、保護者、担任への適切な働きかけを行い、生徒の意欲を喚起し、少しずつでも進歩させる。

⑤ ボランティア精神を育成するための活動を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> 今年度新たに学年単位での活動を導入するにあたり、計画的に立案し有意義な活動とすることができたか。 公共心や社会貢献の精神が涵養できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事として定着できるよう内容や方法を工夫していく。 生徒に活動の意義を理解させ、ボランティア精神を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀城公園や学校周辺地をボランティア活動の場所とし、より効果的な日程を決めて遂行する。 生徒に対し、日頃の学校生活のなかでボランティアの意義について触れる。

⑥ 更なる保護者や地域への情報発信に努力する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の重点目標を周知することができたか。 学校評価等による保護者・地域の期待と信頼の向上ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標を知っている保護者の割合を100%にする。 学校評価計画が教育活動の改善につながっていることを保護者に理解してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標を後援会総会、学校だより、保護者会、本校HPを通して同じ文言で繰り返し発信し、周知を図る。 評価項目や具体的目標、具体的方策についての改善点を上記方法により説明する。
学校運営	○広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報提供は十分にできたか。 中学生への情報提供は十分にできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の諸活動、諸行事についての情報を保護者に適切に伝える。 西高の魅力をより具体的に、中学生に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「西高だより」の内容を保護者のニーズに合うものにする。また、ホームページの更新を適宜行い、新しい情報を提供する。 西高パンフレットをより良い内容に検討し作成する。体験入学の内容を中学生によりわかりやすく魅力的なものにする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 心身共に健康な生活が実現できるための指導、支援ができたか。 保健室利用者が教室に復帰できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら心身の健康状態を把握するとともに、予防や食育についての指導を行う。 利用者数を減らすとともに早期に教室に戻れるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果を活用し、受診を要する生徒への指導を充実させ、また「保健だより」を利用した指導も行う。 自分の身体の状況を把握させ、回復への手だてを考えさせ、実践させる。

●印:共通評価項目 ○印:独自評価項目